

スキー実施率・航空機利用率・海外実施率の推移(10年間)

(単位:校数)

年 度	修学旅行実施校			スキー実施校				航空機利用校				海外修学旅行実施校			
	全日	定時	計	全日	定時	計	実施率	全日	定時	計	利用率	全日	定時	計	実施率
2009	478	57	535	152	6	158	29.5%	405	47	452	84.5%	76	3	79	14.8%
2010	470	59	529	151	6	157	29.7%	405	39	444	83.9%	74	3	77	14.6%
2011	480	49	529	149	7	156	29.5%	395	33	428	80.9%	85	1	86	16.3%
2012	474	51	525	134	7	141	26.9%	392	34	426	81.1%	86	5	91	17.3%
2013	465	49	514	128	5	133	25.9%	384	30	414	80.5%	101	3	104	20.2%
2014	465	51	516	120	7	127	24.6%	380	25	405	78.5%	109	3	112	21.7%
2015	465	53	518	111	7	118	22.8%	374	34	408	78.8%	100	2	102	19.7%
2016	463	54	517	112	4	116	22.4%	370	34	404	78.1%	98	2	100	19.3%
2017	457	55	512	99	5	104	20.3%	369	39	408	79.7%	96	3	99	19.3%
2018	460	56	516	88	2	90	17.4%	358	30	388	75.2%	114	1	115	22.3%

※同一学校で科ごとで行先が異なる場合は全てカウントしている。

- スキー実施率は2011年度以降年々減少しており、2018年度は20%を割った。修学旅行の内容の変化が伺える。
- 航空機利用率は10年間で10%ほど下がっている。北海道への修学旅行の減少(資料4)とも関係していると思われる。
- 海外修学旅行はこれまで2001年の米国同時多発テロ、2003年のSARS、イラク戦争、2009年の新型インフルエンザなど世界情勢、感染症の流行等に大きく影響を受けてきた。その後、燃油SCの変動等により伸び悩んでいたが、2013年度からは少し回復傾向になり20%前後の実施率で推移し、昨年度はこの10年で最高の実施率である。



